

もの言う牧師のエッセー 第258話 リオ五輪⑥ 「銀メダルをオークションに」

ポーランド男子円盤投げのピオートル・マラチョウスキ選手は、難病と闘う自国の3歳児を救うため、何と獲得した銀メダルをオークションにかけた。「今日、私はみなさんをお願いする。銀メダルより価値あるもののために、一緒に闘おうということだ。それは、一人の少年の健康である」と呼びかけた。

ポーランド少年オレク・シマンスキちゃんは、眼球のがんに冒され2年間も苦しんできたが、自国で治療することは不可能で、ニューヨークにいる専門医が唯一の望みだという。治療費は48万ズロチ（約1260万円）にも上り、ポーランド国内の財団「シエポマガ」が募金のために設立されたが、それまでに集めた額は3分の1程度。

マラチョウスキ選手は少年との血縁関係はないが、巨額の治療費を賄おうと立ち上がり、彼の自己犠牲の精神に心を打たれた人々が続々と入札、メダルは19000ドルで落札された。彼は「もし私を助けてくれるのなら、オレクにとって私のメダルは『金メダル』以上の価値を持つ」と語っていたが、彼の善意の衝撃は、見事に世界を揺さぶった。聖書には、

「ですから、今、それをし遂げなさい。喜んでしようと思ったのですから、持っている物で、それをし遂げることができるはずです。」 第2コリント人への手紙8章11節、

とあるが、ポイントは「喜んでする」ことと、「持っている物」ですることだ。これがなかなか難しい。しかし神は、無理することや、“ない袖を振れ”などと一言も言っていない。むしろそれは、他者を愛し、自分の持っているものを喜んで与える時、それは互いに補完し合えるものとなるだけでなく、さらに喜びがブーストし、世にインパクトを与え、愛が満ち溢れることを示し、ゴールドより価値のあるものだ。キリストは「持っている命」を我々に差し出されたが、今に至るも彼の周辺は喜びと愛で満ち満ちている。彼について行く者もそうなる。

2016-10-5

